

北陸石仏の会々報

芦峯寺閻魔堂前の義賢名号碑

平井 一雄

『北陸石仏の会研究紀要第3号』（一九九九年十月発行）に伊藤曙覧先生が「義賢行者の足跡」を投稿されている。伊藤先生は義賢の立山参詣に同行した関根新左エ門の資料を訪ねて新潟県頸城村の関根家を数度訪問されている。「義賢行者の足跡」には越中立山を訪ねた折の関根新左エ門の控帳「立山参詣記」が紹介されている。この「立山参詣記」のコピーを伊藤先生より一九九九年二月にいただいている。

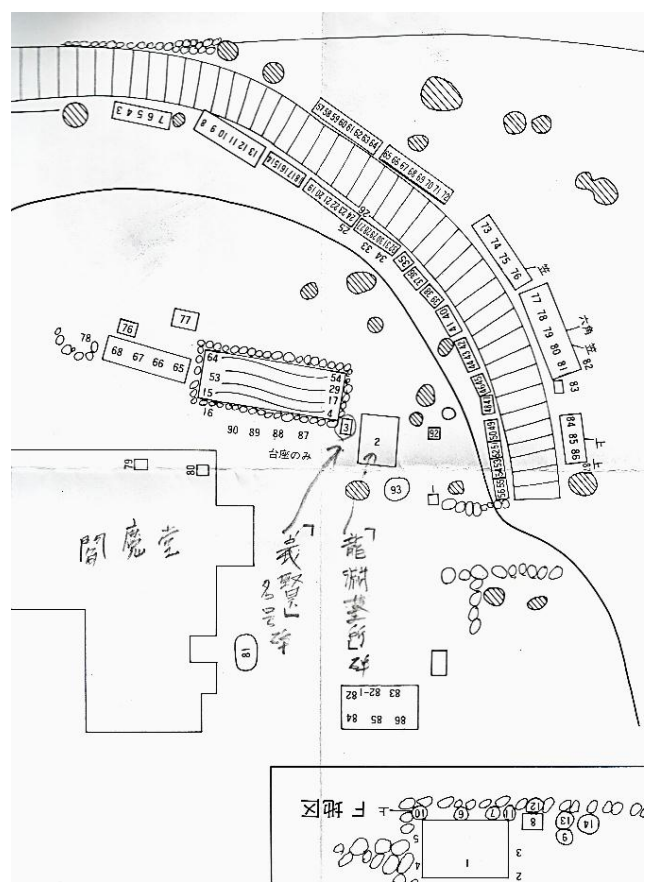
芦峯寺閻魔堂前の「法印龍淵墓所」碑の隣にある「義賢名号碑」は関根新左エ門が父母の菩提を願って建立した供養塔である。「立山参詣記」の中に供養塔概観図や費用・石工甚蔵等の記載があったので該当部分の解説を試みた。■は私の能力不足で読めない字です。誤解読もあるかと思ひます。諸兄のご教示お願いします。

八月六日、「立山参詣記」一部解説を伊藤曙覧先生にお話して了解をいただきました。

関根家より入手した資料は立山博物館に納めてあるとお聞きしました。



平成5年3月富山県立山博物館発行『立山中宮寺跡石造物分布調査報告書』より

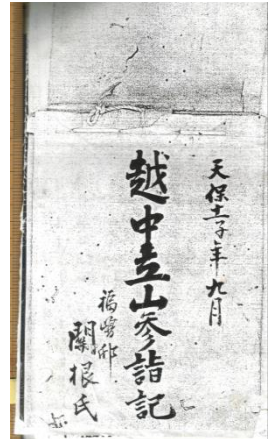
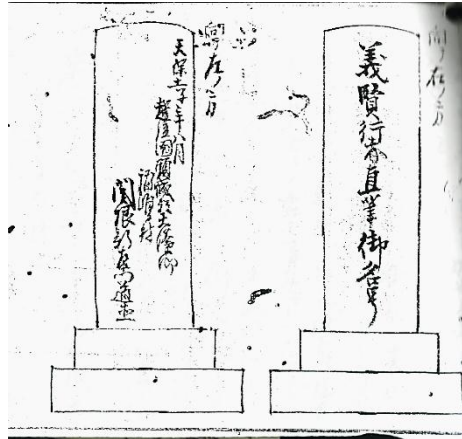
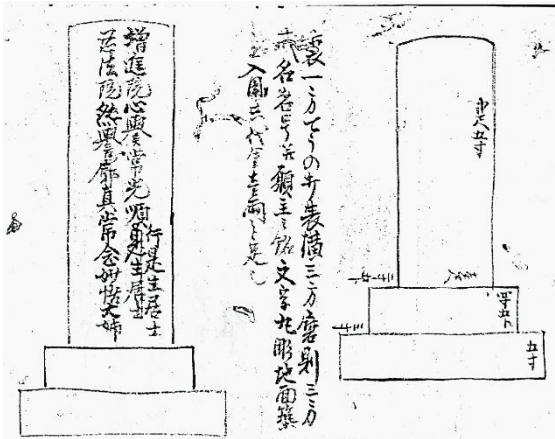


E-3	
1840	
角石標	
「南無阿弥陀佛」	
(背面) 天保十一庚子年八月 越後國頸城郡大湊郷福島村 男関根新左衛門道直建之 増進院心譽常光順行是生居士 忍法院然譽郭真常念妙悟大姉	(正面) 南無阿弥陀佛 義賢(花押) (左側面)

第45号
平成26年9月10日発行
編集と発行
北陸石仏の会
(日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗
〒939-1315
富山県砺波市太田
1770 尾田武雄方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974
(年会費 3000円)

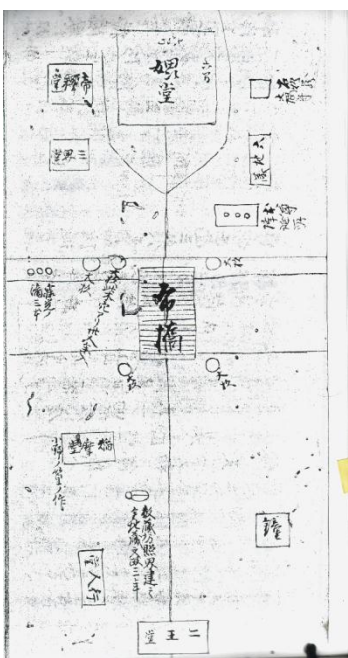
- ・芦峯寺閻魔堂立前の義賢名号碑
- ・越前坂井郡の兩宝童子と六字明王
- ・第8回例会報告 白山麓の石仏めぐり
- ・第9回例会案内

富山県立山博物館所蔵『越中立山参詣記』(天保11年9月、関根氏)より



天保十一年九月廿日
 一 金巻分也
 是者(八)芦峯「御うば堂」境内二関根新左工門
 父母之墓造立之地代とし度尤場
 処者(八)「御うば堂」前布橋と仁王門之真
 向于左手金地蔵之後口地面三尺四方
 余二極也則中宮寺役寮より請取
 ■願 ■候
 一 金巻兩也 墓石代金
 名号戒名年号等如圓丸彫以上
 関根新左工門
 教蔵坊
 善名村石工
 甚蔵
 同
 右 ■ ■ 之同
 金巻分二朱 手付金渡
 右金子請取人
 教蔵坊
 泉蔵坊
 右請取書泉蔵坊直筆二而
 来ル丑之五月迄皆出来
 極也尤彫字之義者追而
 此方手本御 ■ 事

天保十一年九月廿日
 一 金巻分也
 是者(八)芦峯「御うば堂」境内二関根新左工門
 父母之墓造立之地代とし度尤場
 処者(八)「御うば堂」前布橋と仁王門之真
 向于左手金地蔵之後口地面三尺四方
 余二極也則中宮寺役寮より請取
 ■願 ■候
 一 金巻兩也 墓石代金
 名号戒名年号等如圓丸彫以上
 関根新左工門
 教蔵坊
 善名村石工
 甚蔵
 同
 右 ■ ■ 之同
 金巻分二朱 手付金渡
 右金子請取人
 教蔵坊
 泉蔵坊
 右請取書泉蔵坊直筆二而
 来ル丑之五月迄皆出来
 極也尤彫字之義者追而
 此方手本御 ■ 事



天保十一年九月廿日
 一 金巻分也
 是者(八)芦峯「御うば堂」境内二関根新左工門
 父母之墓造立之地代とし度尤場
 処者(八)「御うば堂」前布橋と仁王門之真
 向于左手金地蔵之後口地面三尺四方
 余二極也則中宮寺役寮より請取
 ■願 ■候
 一 金巻兩也 墓石代金
 名号戒名年号等如圓丸彫以上
 関根新左工門
 教蔵坊
 善名村石工
 甚蔵
 同
 右 ■ ■ 之同
 金巻分二朱 手付金渡
 右金子請取人
 教蔵坊
 泉蔵坊
 右請取書泉蔵坊直筆二而
 来ル丑之五月迄皆出来
 極也尤彫字之義者追而
 此方手本御 ■ 事

越前坂井郡の雨宝童子と六字明王

滝本 やすし

神明神社と天照大神

神明神社は天照大神（大日靈貴尊）を主祭神とし、その総本社は三重県伊勢市宇治館町の神宮内宮である。皇大神社、太神宮、伊勢神社とも称し、京都では天祖神社と称される。その数は誉田別命（応神天皇）を主祭神とする八幡神社について多い。天照大神は太陽を神格化した神で、皇室の祖神である。神仏習合においては神道側の最高神とされた。

昨年（平成二十五年）は伊勢神宮の第六十二回式年遷宮にあたり、十月二日に内宮（皇大神宮）で、十月五日には外宮（豊受大神宮）で遷御が斎行された。



金沢市銚子町不動尊堂
天照大神、八幡神、春日神 絹本着色絵像

雨宝童子

雨宝童子は両部神道の神で、赤精童子とも称される。頭に五輪塔を乗せ、左手に宝珠を持ち、右手で宝棒を岩座に突き立てて立つ。足元に白狸を踏み像もみられる。全国各地の神明神社で御神体として祀られているが、中部地方での作例が多い。

現存する雨宝童子の最古の作例は、三重県伊勢市朝熊町の臨濟宗南禅寺派金剛証寺の木像である。寺伝では弘法大師の作とされ、天照大神が十六歳の時に日向の国に降臨した姿と言われている。平安時代の作で、国の重要文化財に指定されている。しかしこの尊像は頭上の五輪塔などが鎌倉時代以降の後補であることから、もともとあった吉祥天と思われる尊像を転用したものと考えられている。

雨宝童子は神明神社の御神体として祀られている場合が多いので、一般の目に触れる機会はほとんどない。御神体のため調査されていないものが多く、報告例は少ない。しかし天台宗寺院や真言宗寺院等はその作例が確認される。これは明治の神仏分離の際に寺院側へ移されたものである。



白山市白峰林西寺 鑄造雨宝童子

六字明王

六字明王は、六字尊、六字天、黒仏、黒六字などとも呼ばれ、真言密教における六観音の修法六字経法の本尊である。明王という名であるが、六観音（聖観音、千手観音、馬頭観音、十一面観音、准胝観音、如意輪観音）を一体で表した菩薩である。『新纂佛像図鑑』に次のように記述されている。

六字明王は六字神呪經により調伏を修する法の本尊にして、正観音、千手観音、馬頭観音、十一面観音、准胝観音、如意輪観音等の六観音の惣合成就身なりと傳ふ。即ち六字經の法とは、六字河臨法或は黒六字法と稱し、常の法は壇上に弓、箭、劍、を置き、護摩を焼き、護摩の世天段に天狐、地狐、人狐の三類形を焼くものにして、若し特に怨敵ある場合は、其の人の姓名を記して之を焼く法なり。斯くして後蘆箭桑弓を以て六方を射て怨敵を拂ひ、護摩方中には伴僧に結線法を行ぜしめ、護摩の法と結線とを施主に送るを通則とす。此の法は慈覺大師支那より請來せりと稱すれども、其の方法は我が邦陰陽道の請伏法と類似し、其の流儀甚だ多し、従て此の明王の形相は儀軌に其の説なく、又た神呪經にも之を説かざるを以て、一定の形相を示すを能はざれども、圖像鈔には山門の前唐院に曼荼羅あり、題して六字天王と云ふ、その中尊は六臂の立像にして、左右第一手印を作る、今四手持物本圖「右第二手劍、第三手日輪、左第二手鉞、第三手月輪の如し、この尊未だ本説を見ず、山の人云ふ、この尊は唐院にありと雖も全く調度の文書なし、鳥羽殿丈六の像これなり」と。然るに薄艸決に引ける六字神呪王儀軌法には「身相青色にして四臂を具す、左第一手大刀を持し第二

手日輪を挙げ右第一手鉾を持ち、第二手月輪を挙げ、大暴悪相なり」とあり。印相は諸説一定せずと雖も、二手各々大指を以て無名指を捻し、右手掌を揚げ、右手掌を覆せ右の頭指を以て左の大指無名指の間に入れ、右の小指を以て左の中指を押し、右中指を以て左の頭指を押し、四處を加持するもの圖印集に出づ。眞言は法智住住法毘智、緘壽々々多智、婆智。



ウヲ ヲメ ジク ロ
王 明 字 六 (260)

これには六臂像と四臂像が記述されているが、図版は六臂像のみが掲載されている。また『密教大辞典』にも六臂像の図版が掲載されており、『佛像圖彙』には四臂像の図版が掲載されている。六字明王の作例は全国的にも少なく、特に石像は希である。

越前坂井郡の神明神社

福井県坂井郡の六つの町は平成の市町村合併によって、金津町と芦原町の二町はあわら市に統合され、三国町、坂井町、丸岡町、春江町の四町は坂井市に統合された。なお本文中では、これ以降旧町名表記を用いる。

『御大典記念 福井県神社誌』（平成六年、福井県神社庁）によると坂井郡六町の神社総数は二百九十六社で、神明神社はそのうちの二十八社である。全体の一割に満たず、多い数とは言えない。またこの他に、本殿に天照大神を合祀する神社が十五社、境内社および境外社として神明神社を有する神社が二十一社記述されている。これには法人登録されていない神社は含まれていないので、実数はこれを少し上回っている。

『福井県石造建造物調査報告書 神社編1』（平成十四年、若越建築文化研究所）に、三国町楽田の神明神社の旧社殿と思われる石祠に元和二年（一六一六）の銘が記述されていることが記述されている。しかしこの石祠は現在確認できない。また三国町西谷の雨岡神社の境内社神明神社石祠には慶安元年

（一六四八）の銘が読み取れる。この石祠の奥壁内面には雨宝童子立像が浮彫りされている。

越前坂井郡の神明神社の御神体

坂井郡の神社で確認される雨宝童子は十八体で、そのうち木像は四体、石像は十四体である。石像十四体のうちで丸彫りは二体、浮彫りは十一体、石柱に筆で雨宝童子の絵像が描かれたものが一体である。浮彫り像は石祠の奥壁に彫られているか、その奥壁のみの残欠である。そして坂井郡の神社で確認される六字明王は七体で、これらは全て六臂の浮彫りの石像である。これらも石祠の奥壁に彫られているか、その残欠である。またその他に、刻像ではなく「天照皇大神」等の文字が刻まれている例もみられる。御神体のため調査できないものが多いので、実数はこれよりもさらに多いであろう。

分布密度に差異はみられるが、雨宝童子は坂井郡のほぼ全域に分布している。しかし六字明王は芦原町に三体、三国町に三体、坂井町に一体が確認されるが、金津町、丸岡町、春江町には一体も確認されない。坂井郡の北西部に集中している。

坂井郡の北西部では、天台宗と結びついた神明信仰では雨宝童子を御神体とし、眞言宗と結びついた神明信仰では六字明王を御神体としている。これにより雨宝童子



坂井市坂井町上関八幡神社境内社
石造六字明王(浮彫)



坂井市三国町油屋神明神社旧社殿
石造雨宝童子(丸彫)

がみられる地域では天台宗の勢力が強く、六字明王がみられる地域では真言宗の勢力が強かったことがうかがえる。しかしこの地域の真言宗寺院では六字明王の木像や絵像などは確認できず、六字明王が神明神社の御神体とされた経緯などは全く不明である。なお真言系では、大日如来を御神体としている例もみられる。

石造の雨宝童子や六字明王には、単体像だけでなく三尊形式のものもいくつかみられる。

雨宝童子三尊は、芦原町牛山の神明神社境内の旧社殿内と、近くの三国町池上の伊伎神社本殿内に確認される。

伊伎神社本殿内の雨宝童子三尊は、合祀された神明神社の御神体であったと考えられる。これらの雨宝童子三尊はいずれも中央に雨宝童子が大きく彫られ、向かって右に延命地藏、向かって左には制吒迦童子とみられる像が脇侍として彫られている。その手法から江戸時代前期の作と思われる。なお伊伎神社本殿内には、円柱状の石棒に筆で描かれた雨宝童子の彩色絵像がみられるが、笏谷石以外での唯一の作例であり、後に奉納されたものであろうか。

六字明王三尊は、私は実見していないが『芦原町史』に芦原町北本堂の神明神社本殿内の尊像が報告されている。写真は掲載されていないが、中央に六字明王が彫られ、向かって右に阿弥陀如来、向かって左には釈迦如来が脇侍として彫られていると記述されている。元禄九年（一六九六）の銘が入っているそうである。

神明神社の御神体の造立年代については、石祠奥壁の浮彫り像は江戸時代



坂井市三国町池上伊伎神社本殿合祀 石造雨宝童子三尊(浮彫)『池上区史』より

前期から中期と考えられるものが多く、江戸時代後期のものいくつかみられる。丸彫りの石像は、幕末から明治の作のようである。また木像については、江戸時代初期（推定）から明治時代までの長期間の作例がみられる。

越前坂井郡の雨宝童子と六字明王

住所	鎮座地	御神体尊像・造立年
あわら市(金津町)山十楽	神明宮 本殿	石造雨宝童子立像(浮彫)
あわら市(金津町)清王	金峰神社 境内社	石造雨宝童子立像(浮彫)
あわら市(金津町)伊井	白山神社 境内社	石造雨宝童子立像(浮彫) ・天保十二年(一八四一)
あわら市(芦原町)赤尾	白山神社 境内社	石造六字明王立像(浮彫)
あわら市(芦原町)城	神明神社 本殿	石造六字明王立像(浮彫)
あわら市(芦原町)牛山	神明神社 境内旧社殿	石造雨宝童子三尊立像(浮彫) 脇侍：地藏菩薩、制吒迦童子
あわら市(芦原町)北本堂	神明神社 本殿	石造六字明王三尊立像(浮彫) 脇侍：阿弥陀如来、釈迦如来 ・元禄九年(一六九六)
坂井市三国町池上	伊伎神社 本殿合祀①	石造雨宝童子三尊立像(浮彫) 脇侍：地藏菩薩、制吒迦童子
同	同 ②	石造雨宝童子立像(絵像)
坂井市三国町平山	春日神社 境内社	石造六字明王立像(浮彫)
坂井市三国町西谷	雨岡神社 境内社	石造雨宝童子立像(浮彫) ・慶安元年(一六四八)
坂井市三国町加戸	加戸神社 境内社	石造六字明王立像(浮彫)
坂井市三国町神明二丁目	神明神社 本殿	木造雨宝童子立像(丸彫)
坂井市三国町油屋	神明神社 境内旧社殿	石造雨宝童子立像(丸彫)
坂井市三国町西今市	神明神社 本殿	木造雨宝童子立像(丸彫)
坂井市三国町黒目	春日神社 本殿合祀①	石造雨宝童子立像(浮彫)
同	同 ②	石造雨宝童子立像(丸彫)
坂井市三国町山岸	片岸神社 境内社	石造六字明王立像(浮彫)
坂井市坂井町上関	八幡神社 境内社	石造六字明王立像(浮彫)
坂井市坂井町下関	春日神社 境内社①	石造雨宝童子立像(浮彫)
同	同 ②	石造雨宝童子立像(浮彫) ・宝永六年(一七〇九)
坂井市坂井町御油田	八幡神社 本殿合祀	木造雨宝童子立像(丸彫)
坂井市坂井町田島	神明神社 本殿	木造雨宝童子立像(丸彫) ・明治四年(一八七一)
坂井市坂井町清永	白山神社 境内社	石造雨宝童子立像(浮彫)
坂井市春江町安沢	安澤神社 境内旧社殿	石造雨宝童子立像(浮彫)

第48回例会報告 白山麓の石仏めぐり

酒井 靖春

平成二十六年五月十八日(日) 白山麓の石仏めぐりは、風にそよぐ木々も眩しい、そんな快晴に恵まれました。

初めに白山市石立町にある【石の木塚】に行きました。

石井さんの説明では、ここは海も近く手取川も流れているため、どうやら交通の要衝であり、朝鮮との交流地であったのではないかとの事でした。そのため、この石柱は朝鮮式の道標ではなかるうかと話され、とても興味深く感じました。また、製作年代も古く十世紀頃のように、これだけ古い物が残っている事にも感動致しました。

次にJR加賀・笠間駅近くの公園にある【卵石と石撞】を見学しました。これは予定にない所でしたが、こちらの石撞も年代が古く、今回案内して頂いても良かったです。

白山市島田町で案内して下さった板碑群は、別所から移動して保存されているもので、美しい梵字の板碑は初めて見る形であり、心惹かれました。

向かいにある八幡神社の狛犬は逆立ちをした物で、富山でもいくつか同じ形態の物があります。金沢石工・福嶋伊之助が銘工で、このような素晴らしい作品を他にも残しているようです。富山県にも福嶋伊之助の作った狛犬があり、この八幡社の狛犬と似たような作りであったと記憶しています。

白山市鶴来本町の一閑寺では、磨崖不動明王とその足下にある板五輪塔と、笠ひさし付の延命地藏があり、巨大な物としては、とても珍しい物でした。



石の木塚(柱状立石群)

寺内は写真撮影禁止の為、撮影できず、とても残念でした。墓地では、家型石棺を初めて見ました。石棺自体、初めて見ましたが、家型となっている物は珍しいのではないかと思います。また、遠目ではありませんが、寺の横にある法華塔も見ることができました。

白山市月橋町では、月橋観音堂にある三宝荒神泥像を地元の人に開けてもらい、見学させて頂きました。滝本さんの話では、石造の物もあり、富山県内にもあると聞き、探しに行く楽しみもできました。

白山市三宮町・白山比咩神社

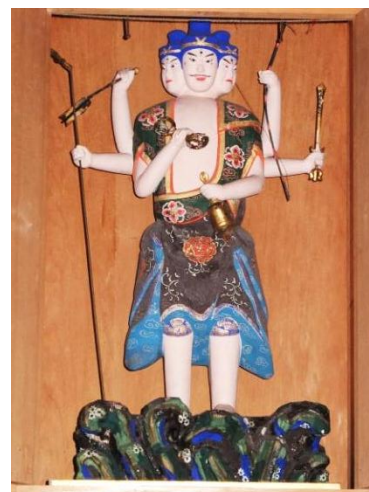
では、宝物館を神職の案内の元、説明を受けながら六地藏板碑と木造狛犬物を見学致しました。写真撮影の許可を頂き、狛犬を撮影させて頂きました。神社の外に出てしばらく行くと祠があり、瀬織津姫が祀られていました。瀬織津姫とは穢れを祓う神様で、大祓詞にも登場されています。

白山市八幡町の八幡神社では、磨崖仏から切り出した泰澄大師坐像を見学致しました。人の背の高さぐらいある大きさに、大変驚きました。

白山市今町波切の不動明王も磨崖仏で、こちらも切り出された物でしたが、立派な建物の中にあり、周りに小さな仏様達も置かれています。小さな仏様達は、まるで不動明王の眷属のように見えました。不動明王は、前を流れる大きな用水を見守っておられ



波切不動明王



月橋観音堂の三宝荒神泥像

るようにも感じました。

白山市白山町の【かたがり地蔵】は、磨崖仏の切出し石仏です。この地域ならでわの、昔の信仰風景を想像できるような、そんな地蔵でした。

尾田さんの話では、坐像の下は蓮台でないので、地蔵さまでなく八幡神なのではという事でした。また、下に沢山宝塔が彫つてあるのですが、それは後刻されたものであるというお話を聞き、大変興味を持ちました。

白山市若原町の八幡神社では、社殿の中にある青面金剛像は珍しく四臂で、上の両手で両耳を押さえ、下の右手に剣を持ち、下の左手は何かを持つておられる坐像でした。下の左手に何をもつておられるのかは、はっきりとは解りませんでした。

富山市西番の鉄心寺にも四臂で、指で耳を塞ぐ不動明王の様な仏像が有るのを思い出し、もしかしたら、同じ仏様ではないかと思いました。

能美市岩本町の岩本神社に有る五輪塔群では、地元町内会の方に説明を受けました。神社の中も見学させてもらい、中にある狛犬は、白山狛犬ではないかと思われました。その他、奥にもシンプルな白山狛犬に似た小さな狛犬が置かれていました。

最後は能美市辰口町の集福寺に行き、大きな笏谷石の綺麗な地蔵尊を見学しました。

その地蔵尊を見てみると、今まで見てきた磨崖仏にダブって見え、不思議な感じがありました。



集福寺の地蔵

この報告書を書いていると、ふと感じたことがあります。

最初に見た朝鮮式道標から始まり、多くの磨崖仏を見学させて頂いた事か



一閑寺磨崖不動明王の前にて記念撮影

ら、手取川流域は渡来人の影響を強く受けたことを感じました。今回も多く石仏を見学でき、有意義な一日で多くの事を学びました。解説して頂いた方達に感謝申し上げます。ありがとうございました。

北陸石仏の会 第49回例会

— 富山県朝日町の石仏めぐり —

平成26年10月19日(日)

参加費：5000円(バス・資料代)

集合場所：①JR金沢駅西口……………7時00分

②JR砺波駅南口……………7時40分

③大沢野文化会館……………8時20分

④JR泊駅……………9時30分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成26年10月10日(金)

案内：川端典子(朝日町)、平井一雄(富山市)、滝本やすし(金沢市)

◎大平 十二社／狛犬、石祠

◎境 一里塚／「法界萬霊供養塔」、題目塔、青面金剛

◎境 高野山真言宗護国寺／「納経塚」、「南無大師遍照金剛(寛明)」、四国八十八ヶ所霊場石仏

◎境 西町共同墓地／「法界萬霊供養塔」、地藏、観音、文殊菩薩、青面金剛

◎横尾 路傍／法華塔、地藏、観音、不動明王、青面金剛、弘法大師、力士の碑

◎笹川 路傍／阿弥陀如来

◎笹川 個人宅／屋敷神(地神様)

◎泊 曹洞宗松林寺／観音、六地藏、青面金剛

◎南保 高野山真言宗清水寺／西国三十三ヶ所観音、不動明王、青面金剛、「青面大金剛神」

◎大家庄 曹洞宗天香寺／法華塔、観音

◎殿町 観音庵／地藏

◎横水 一里塚／題目塔、地藏、観音、青面金剛

[諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。]



境護国寺の寛明碑



笹川路傍の阿弥陀如来



大家庄天香寺の観音